令和6年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(三保地区)

開催日時	令和6年10月24日(木)午後7時00分から午後8時30分
場所	三保支所2階
町民参加者	23人
町出席者	町長、副町長、教育長、地域防災課長、環境課長、商工観光課長、上下水道課長、事務局3人

意見交換の概要

<テーマ 三保地域の遊休施設の活用について>

○旧ビジターセンターの現在の状況について町からの説明

環境課長： 旧ビジターセンターについては、平成8年に神奈川県が開設したが平成26年度で施設が廃止となり、町に譲渡され現在に至っている。町では、計画に基づき令和12年度までを目標に民間事業者への貸し出しを目指し、いくつかの事業者に施設の活用について打診している状況である。令和元年以降も年間数件の問い合わせがきているが、維持管理費の問題もあり貸し出しには至っていないというのが現状である。従来はユースン溪谷の玄関口として総合的な利活用を目指していたが、町議会から施設の単独利用について提案があったことから、単独貸し出しに向けて検討をはじめたところである。なお、同時期に2つの事業者から相談があり、それを受けて9月に町ホームページで提案募集を行い現地で説明会を実施したところである。今後プレゼンテーションを経て選定委員会で審査を行う予定である。また、今後話が進んでいけば住民説明会も開催する予定であり、最終的には年度末で区切りをつけていきたいと考えている。

○旧丹沢荘の現在の状況について町からの説明

商工観光課長： 旧丹沢荘については、平成29年に閉鎖の方向が示され平成30年度に地元説明会が開催された後、所有者の広域水道企業団が民間事業者売却したという経緯となっている。その後、台風だったり、コロナがあったりで全く整備が進んでいない状況だったが、今年の9月に町と広域水道企業団、売却先の事業者で協議を行った。その際に事業者からようやく業績が持ち直してきて動ける状態になりつつあるとの話があった。現在は、設計作業に入っており、遅くとも年内から年度内には何らかの動きがあるのではないかと考えている。事業者からは、地元説明会を開催したうえで事業を進めていくということを聞いており、町からも三保地域振興会と連合自治会に資料提供をさせていただいている。本日もご意見をいただければ、この場ではお答えできないが事業者の確認をさせていただく。

[所管課：商工観光課]

丹沢荘は昭和 53 年にダムが完成した際に、代替地に移った人々が故郷を思い出して過ごすための施設として建設されたものである。売却については町の判断でされたのか。経緯を伺いたい。売却する際に代替地に移った人々への説明が足りなかったように感じる。

商工観光課長： 丹沢荘の所有者は町ではなく広域水道企業団であったことから、町が売却を決定した訳ではない。そのことから売却に至った経緯は町には残っていない。当時の会議録から収益性の理由があったというのは確認できている。

副町長： 町としてもどういう経緯があったのか確認させていただきたい。

[所管課：環境課、商工観光課]

町から遊休施設の活用について説明があったが、施設を有効活用することによって三保地域にどのようなメリットがあるのか伺いたい。

環境課長： ビジターセンターについては、施設が老朽化していくと犯罪が発生する可能性もあるので、それを防ぐためにも活用していくことが必要であると考えている。また、事業者への提案募集もあくまで「地域振興」という目的で行っている。具体的な内容については、事業者からの提案内容によるところになるが、あくまで地域振興のための事業ということになっている。

商工観光課長： 旧丹沢荘が閉館になった場所がまた新たに旅館などとして事業が開始されることは、地域の賑わいの創出につながると考えている。また、事業者からは地域雇用を活用していきたいという話もあった。事業者がすでに事業を展開している箱根町でも 65 歳以上の方を数人雇用していると聞いている。そういったことで地域に還元されるという認識を持っている。

[所管課：－]

三保ダム完成後、丹沢湖周辺地域において町が行う環境の保全、整備や住民の生活基盤の向上に資する事業及び経費に助成を行う目的で設立された三保ダム周辺地域振興協力基金について伺いたい。現在はどのように活用されているのか、私自身は活用方法に疑問を感じている。また活用方法の公表が不十分ではないかと考えている。

町長： 平成 26 年に神奈川県からの依頼があり、山北町環境整備公社で 3 億円の基金を受け入れた。その内の 5,600 万円の利息をふるさと会に渡して活用していただいている。残りについては、地域のために活用している状況である。また、基金の運用状況については、議会や町ホームページで公表している。

現在、休館中である薬草園や森林館について、今後の予定はあるのか。20年以上休館になっているが再開の予定がなければ閉館するべきではないか。今も観光客に薬草園について聞かれることがある。

商工観光課長： 薬草園及び森林館は昭和60年、61年に国からの補助を受け整備したもので、ご指摘のとおり20年以上休館している。また、木造の施設のため傷みがひどくなっている。この2つの施設については条例が整備されており、それを廃止しないと別の用途に活用したり、解体したりといったことができない。令和7年度に条例の廃止手続きをとり、その後解体することなどを予定している

〈テーマ その他〉

ぶなの湯でパートタイマーとして働いているが、ぶなの湯が壊れたら町は直す意向がないと聞いた。日帰り温泉がこの地域には少なく、地域の観光振興に一役買っていると思うので、なんとか継続してもらいたい。

ヤマビルが多くなっており、ぶなの湯周辺にも発生している。都会の人はヤマビルを知らないので、正しい対処方法を知らない人が多い。他自治体の事例などを参考にヤマビルは必ず逃がさず、処分する旨を記載した看板を設置するなど、ヤマビルをこれ以上増やさないようにする方策を検討いただきたい。

町長： ぶなの湯が壊れた場合でも直さないということはない。ただし、温泉が出なくなってしまう場合に温泉を再度掘るとなると膨大な費用がかかるので、その際は難しいと考えている。ヤマビルについては、当初は玄倉地域など発生する場所は限定的であったが、現在はどこにでもいる状態である。このような状況を県にも伝えているが、対策方法が見つかっていない状況である。町としては、講習会の開催や自治会への忌避剤の配付をしており、ご意見いただいたとおりに注意喚起の看板なども必要だと考えている

環境課長： ヤマビル対策として、自治会に忌避剤の配付を行っている。町長からもあったが、平成26年に玄倉地区で確認されて以降、町内全域に広がっている状況である。ヤマビルは現在の研究で5年は生きるとのことから、見つけたら必ず駆除しないとどんどん増えてしまう。山北町、松田町、大井町で広域推進協議会を立ち上げており、協議会で看板も購入し、配付させていただいているので、ご連絡いただきたい。

副町長： ヤマビルについて、正しく理解することが必要だと思う。共和地区では、小学生に森林環境教育の一環でヤマビルの対処法を教えている。私自身、共和地区での研修会に参加したりしたことにより理解を深めることができた。

[所管課：環境課]

シカがヤマビルを運んでいることが、広まっている要因であると考えている。シカの数減らす取り組みが必要ではないか。あと塩が効果的であると聞いた。

環境課長： 高松山や大野山には塩水のスプレーを置いている。一方で塩はシカをおびきよせることにもつながってしまうので、塩の活用方法については検討していく必要がある。また、ハイキングする方にはまず自己防衛するようホームページなどで周知している。

[所管課：企画総務課、福祉課]

三保地域では70歳以上の人の割合が大きくなっており、病院に行くことなどが困難な人が多くなっている。このことから、町循環バスを三保地区でも運行して欲しい。

また、民間事業者が開始された移動スーパーについて、事業開始までの経緯を伺いたい。

町長： 町では循環バス以外にもスクールバスなど様々な交通施策を行っているが、循環バスについては、国の補助金を活用しており元々バス事業者が運行していた区間を引き継いだ経緯があるので、それを三保地区まで伸ばすというのは難しいため、その他の施策を検討している。

移動スーパーについては、事業者は当初静岡県で事業を行っており、それが今回山北町で社会貢献という目的で開始された事業となっている。

[所管課：商工観光課]

谷峨駅を降りた観光客が大野山に向かう際、看板が小さいことから道を間違える人が多くいるため、大きな看板を設置していただきたい。

商工観光課長： 早々に設置できるよう調整させていただく。

副町長： 気づいたことがあれば、担当課に連絡いただきたい。

[所管課：商工観光課]

観光客からユーシンプルーを見に行ったという話をよく聞くが、地元ではまだ道路が通行止めという認識でいる。現在の状況を伺いたい。

商工観光課長： 現在は玄倉ダムまでは行けるので、ユーシンプルーは見えるようにはなっている。なお、その先は林道の工事が続いており、ユーシンプルーへは行くことができない状況である。また、落石などの危険があることから、県のホームページを確認したうえで十分注意して行くよう周知している。

町長： 県からも道路が完全に復旧するまでは、積極的なPRは控えてもらうよういわれている。

[所管課：環境課、商工観光課]

ごみの収集について、お盆の時期になるとバーベキューやキャンプをしにきた観光客がゴミを指定された場所に曜日に関係なく置いていってしまう。それを近所の住民が対応している。環境整備公社で週に1度ごみの収集をしているのを聞いたので、お盆の時期だけでも巡回していただいてゴミを回収できるようにしてもらえないか。

環境課長： 町に連絡いただければ、対応させていただく。また、環境整備公社で対応できるかは調整させていただきたい。

[所管課：都市整備課]

簞沢地区へ向かう道路の拡幅の計画について伺いたい。休日の度に渋滞がひどく、危険な状況である。道路が二車線になるよう県に要望していただきたい。

町長： 県に当初4ヶ所を拡幅するよう要望していたが現に1ヶ所しかできていない状況である。それ以外にも各所で拡幅の要望をいただいている。また、新東名高速道路の事業者の中から地域に貢献したいということで、課題となっている箇所の工事について費用を抑える技術や工法を提案したいという話があるのでそういったものを活用していきたいと考えている。引き続き県にも強く要望していく。

[所管課：企画総務課、新東名対策室]

新東名高速道路工事に従事している方の宿舎があり工事後は宿舎がなくなるが、その後どのような方向性を考えているのか。

副町長： 三保地区以外にもいくつか新東名高速道路の事業所や宿舎があるが、令和7年度から具体的な利活用についての計画を立てていく予定である。

町長： 皆さんからもご意見を伺い、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っている。